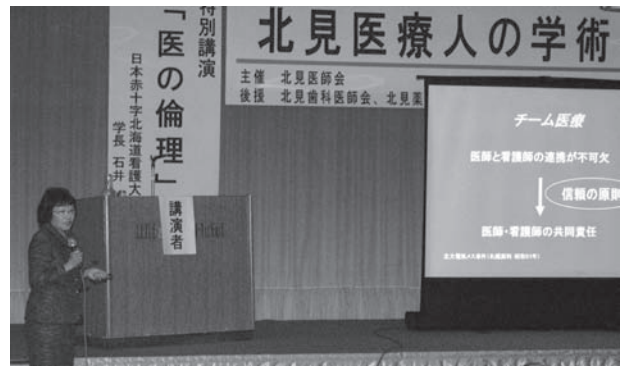


人倫理、社会倫理、職業倫理を備えていることが求められ、現代のチーム医療の実践においては各職種間の連携・信頼関係の構築が重要となってくるのお話を伺いました。またIC (Informed Consent)、プライバシーなどの概念について、その成り立ちの歴史的背景について解説いただき、機関内倫理審査委員会、IRBのあり方についてのご高説を伺うことができました。そして医療が国民からの信頼を勝ち得るための医療者のあり方、中でも臨床疫学研究のあり方について科学的合理性と倫理的妥当性が重要であるとのお話を伺いました。

北見医師会として初めての試みとなった今回の学術集会を通じて、多くの職種により医療が成り立ち、各職種間の連携が良質な医療提供のキーポイントで



あることを参加者一同再確認したものと確信します。地域の医療をリードしてゆくべき医師会として、今後さらに内容を充実させ継続してゆくべきものと意を新たにしました。

上川郡中央医師会

勤務医部会開催

上川郡中央医師会
北海道医報通信員 水野清司

上川郡中央医師会は3月8日旭川市内で平成19年度の勤務医部会を開催した。

上川郡中央医師会は昭和62年に勤務医の組織強化のため副会長を2人制とし、内1名は勤務医で昭和62年に勤務医部会を設立している。

開業医と勤務医の数はほぼ半数で総会、研修会等すべての会合が相互の交流の場となり、連携を密にして日常の医師会活動を行なっている。

当日は椎名会長、木下副会長と大方の勤務医が出席され、木下勤務医部会担当副会長の進行ではじまり平成19年度の北海道医師会、全国医師会勤務医部会の近況と地域医療を支えている勤務医師の熱意を冷ますことのないよう労働環境改善が必要であると現場の意見を述べられた。

椎名会長からは医療費抑制策が矢継ぎ早にだされ、医療機関はその対応に追われている時、勤務医とも意見交換を深めて会員相互の連携を円滑にして地域医療の効率を図ることなどの熱心な議論も出て和気あいあいのうちに終了した。

◆お詫びと訂正◆

第1075号の本誌26頁、「転載」の中に下記のとおり誤植がございましたので、謹んでお詫び申し上げ訂正いたします。

記

執筆者氏名

(誤) 井川和夫 (正) 川井和夫